



2022年8月11日

今月のひとこと

## 【Vol.236】 今月のひとこと

今月の  
ひとこと

インベストライフ本号が公開されるのが2022年8月15日、77回目の終戦の日です。今日、多くの人々の平和への希求にもかかわらず世界情勢は何か別の力に引っ張られるように不安定な状態が続いています。改めて世界はお互いに相互依存してこそ、みんなにとって、未来にとって良いことが起こっていくということを痛感します。平和こそ物心両面での豊かさ、幸福のインフラです。



今月はインベストライフ・アーカイブで2012年8月号に掲載した「生き延びる力～戦中・戦後の体験談を聞く」の前編（後編は9月号）をお送りします。この記事は2012年、私が戦中、戦後を生き延びた方と直接面談し、取材をしたものです。すでに10年が経過し、鬼籍に入られた方も多くいらっしゃいます。それだけに貴重なお話です。是非、お読みください。

7月末に明治大学の三和裕美子教授と取り組んできた明治11年から今日まで一貫した株価指数をつくろうというプロジェクトが完成しました。それについては今月号の「リレー投稿」に詳しくでていきますのでお読みください。

大切なのは株価指数ではなく指数の裏側に潜む社会や人々の生活や想いです。ですから指数を見ながら戦前・戦後の歴史を学んでほしいのです。例えば終戦直前の7月後半から製粉、ビール、紡績、人絹など生活物資に関連した銘柄の株価が上昇したと言います、これらは公的には民需株、当時、「平和」は禁句でしたが人々はそっと「平和株」と呼んでいたそうです。

終戦直前の極限状態の中でも株式市場はそれなりの効率性を発揮し、現実を反映していたのです。歴史はそのまま同じことが繰り返すことはありませんが、歴史から学べることはたくさんあります。ウクライナなどで緊張状態が続く今日、戦前の歴史を知ることで正しい判断を下し、同じ間違いをしないですむようにもできるのでしょうか。そして今こそそれが必要なのだと思います。

今号もぜひ、みなさま、お読みください。（岡本 和久）



## FIWA®からののお知らせ・セミナー予定

## FIWA®マンスリー・セミナー #203

【開催形式】 オンライン

【開催日時】 8月21日（日）12:30～15:30

【講演・講師】

- 岡本 和久「アメリカ証券市場史」
- 尾藤 峰男氏 びとらファインancial・サービス(株) 代表取締役社長 バークシャー・ハサウェイ年次株主総会に出席して」

【備考】 お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

---

## サムライズ勉強会 #56回

【開催形式】 ハイブリッド（教室+オンライン）

【開催日時】 8月25日（木）19:00～20:45

【会場】 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクウェア 地下1階002 **On Line参加も可**

【講演・講師】 「現役引退後の高齢期における、資産運用と取り崩しにおけるリスクと注意すべきポイント」 株式会社ウェルスペント代表取締役、横田 健一氏

【備考】 お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

---

## 「三和・岡本日本株価指数」完成記念講演会

【開催形式】 会場参加のみ

【開催日時】 8月27日(土) 14:30～16:30（受付開始：14:00）

【会場】 明治大学・駿河台キャンパス グローバルフロント 1F グローバル・ホール

【プログラム】

- 開会の辞：三和 裕美子
- 祝辞：明治大学商学部長：出見世 信之氏
- 祝辞：澤上 篤人氏
- 祝辞（メッセージ）：明治大学理事長 柳谷 孝氏（代読：三和裕美子）
- ご挨拶：岡本 和久
- 三和・岡本日本株価指数の紹介：太田 達也

- パネル・ディスカッション 「144年の株価は我々に何を語るか」 （登壇者：板谷 敏彦氏、澤上 篤人氏、平山 賢一氏、山口 勝業氏、モデレータ：岡本 和久）
- 質疑応答
- 閉会の辞

【備考】 参加費：無料

お申込みは以下のアドレスにお名前、連絡先をお送りください  
info@i-owa.com （担当：田辺）

---

## FIWA®説明会 IN 東京

【開催形式】 ハイブリッド（教室+オンライン）

【開催日時】 9月10日（土） 13：30～16：30

【会場】 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクウェア 地下1階002

【講演・講師】 岡本 和久、岩城 みずほ

【テーマ】 不適切なアドバイスはあなたの大切な資産を毀損する～顧客ファーストのアドバイスについて考えてみませか～

- 岩城 みずほ 「広がる海外との金融資産格差 未成熟な投資助言が一因」（45分） 5分休憩
- 岡本 和久 「アドバイザーと歩む『しあわせ持ち』へのロードマップ」（45分） 5分休憩
- 二部 パネル・ディスカッション 石津 史子、杉山 夏子、岩城 みずほ （モデレータ：岡本 和久）

【受講料】

一般の方 1000円+消費税

FIWA正准会員、FIWA友の会、アドバイザーリーボードメンバーのみなさまは無料です。

【主催】 NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会

【お申込先】 <https://fiwa.or.jp/2022/08/09/3588/>

---

## FIWA®マンスリー・セミナー #204

【開催形式】 オンライン

【開催日時】 9月18日(日) 12:30～15:30

【講演・講師】 岡本 和久 「日本株式市場144年史」、三和 裕美子氏、太田 達也氏 「新指数発表報告」

【備考】 お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

---

## FIWA®説明会 IN 大阪

【開催形式】 ハイブリッド（教室+オンライン）

【開催日時】 9月24日（土）

【会場】 ドーンセンター

【講演・講師】 岡本、岩城

【備考】 FIWA®認定アドバイザーの集い

【参加費】 無料

【お申込み】 [joho@fiwa.or.jp](mailto:joho@fiwa.or.jp) (担当 : 赤堀)

---

#### FIWA®マンスリー・セミナー #205

【開催形式】 オンライン

【開催日時】 10月16日(日) 12:30～15:30

【講演・講師】 岡本 和久「株式会社の歴史」、河口 真理子氏「日本におけるSRI、ESG投資の歴史（仮題）」

【備考】 お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

---



今月号の記事をすべてダウンロードす

このページを印刷する

カテゴリー

今月のひとこと

タグ

【Vol.236】 2022年08月15日発行



2022年8月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 1

## 【Vol.236】市岡 繁雄氏講演

### 次はこうなる～古今東西のデータから読み解く相場の過去、現在、未来

講演：市岡 繁雄氏  
レポーター：赤堀 薫里

#### 市岡繁男（いちおか・しげお）氏 相場研究家 プロフィール

1958年、北海道生まれ。81年一橋大学経済学部卒業後、住友信託銀行（現三井住友信託銀行）入社。支店や調査部を経て、87年から資産運用部門で勤務。1996年に同社を退職後は、ロスチャイルド投資顧問や富国生命保険、中前国際経済研究所などで資産運用や調査研究業務を務めた。2018年に独立し、現在は財団や金融機関の投資アドバイザーを務める。18年秋から週刊エコノミスト誌にコラム「グラフの声を聞く」を連載し、現在も続けている。著書に同コラムをまとめた『次はこうなる』（ICI出版）がある。

聖書は預言であり、黙示録は各国の為政者が意識している文章です。また、元気象庁長官、高橋浩一郎氏の遺著や、ラビ・パトラ教授の予言。わたしはこれらの内容を過去のデータから検証し、さらに未来の経済の先行きの予測をします。



わたしは、できるだけ長いデータをもとに相場のヒントを探るやり方をしています。基本的に相場の先行きはよろしくないと思っていますが、目先はかなり下がりました。先週の各国の相場や商品相場を見てみると、1週間でビットコインは3割下がり、今までずっと上がっていた石油株が2割近く下がった。あるいはアルミやニッケル、これまでの商品相場も軒並み下がった。

ところが、ロシア株だけは上がった。ルーブルと株価ですね。ロシアがウクライナに侵攻した後に、これはロシアがひどいことになると思うが、実際は相場を見る限り、ロシアはむしろ強くなってしまった。西側諸国の株価は軒並み下がっています。マーケットはロシアが勝って西側諸国が負けた、そういう判断をしています。私はこのような時は、経験を視野に入れて考えます。

数日前に、フランスの大統領がドイツのシュルツ首相とキエフに行き、ゼレンスキー大統領と会いました。これは日本の報道とは異なり、停戦を促しに行ったのではないのかと、海外でも言われています。キッシンジャーさんが『ロシアの東側をむしろ渡すべきだ』と大胆な発言をしましたが、そうでもないことには、西側諸国は金利が上がり、株価も下がるということで、大変なことになると見たからでしょう。ですから、今週末週にかけて停戦ということが視野に広がってくるのではないのかと思います。そうすると株価は総じて一端戻るのではないのかと思います。

聖書は預言だということで、結構注目しています。黙示録といえば、各国の為政者が必ず意識している文章です。その中で「わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要なものはない」と言っていますが、自分が惨めな者、衰えな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることがわかっていない。「そこであなたに勧める。裕福になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい」というフレーズがあります。

2000年前に書かれたものです。前半の部分は、「例えば私が10億円もっている。それが引き出せなくなることがあるのではない、もしくはお金の価値がなくなることがあるのではないのか」ということをいっているように思います。例えばハイパーインフレになる場合はそういうことがある。「そこであなたに勤める火で精錬された金とは、ペーパーゴールドではなくて、金現物を持ちなさい」ということを聖書は言っています。

2番目高橋浩一郎さん、元気象庁長官です。主に1970年代に活躍された方です。この方の昔の文献を読むと、「80年ぐらいのサイクルで日本の社会は変動しています」ということが書いてあります。例えば1940年代は第一次世界大戦、さらにその80年前の1780年代は寛政の改革、その80年前の1700年代は享保の改革、さらにその80年前は江戸幕府が確立した時代でした。それではその次の80年後つまり1940年代の80年後は2020年です。2020年に何があるのかなと、ずっと考えてきた次第です。

3番目のラビ・バトラ教授の予言。ラビ・バトラさんはインド系のアメリカ人です。1990年代に日本でもたくさん本が出ました。以後、おどろおどろしい対応で、実際扱いされました。これも20年位前に本を買いました。当時はパソコンが発達していなかったため、データがとれませんでした。そこに書いてあることを自分でデータを調べてみると、ことごとく当たっています。言っていることが全部正しかった。

その中で、「独占企業の台頭で、賃金の伸びが生産性に遅れをとると、需給バランスは、借入金増加という人工的な手段でしか維持できなくなる」。つまり生産性はすごく上がるけれど、賃金が全く70年代から増えていません。ほとんど増えていないのに生産性が上がるから企業収益は上がる。だけど消費はしたい。給料は上がらないのでその消費は借入金を増やすという形で増えていきました。そして賃金は生産性より低いいため企業収益は急増。株価も急騰します。

需給ギャップが表面化したとき、株価は下落し、景気後退は不可避となる。これが2008年のリーマンショックで起きたことです。1999年に出た本ですが、リーマンショックをある意味予言していました。この時点で国々は赤字財政、通貨供給拡大といった手段で問題を先送りし、抜本的な改革を打ち出そうとはしない。そこで結局、もっと大きな問題が起きてくる。これが今起きてきたことです。

海外から大量の借入をした国は、通貨が暴落し、インフレが続く、ということで閉めています。「海外から大量の借入れをした国とはどこの国か？」1つはこの間デフォルトしたスリランカ。こういった途上国です。もう一つは中国です、極めつけは米国です。それがこれから起きてくるのではないのか。今はともかく、2~3年後には、通貨が世界的に暴落してお金よりモノだという時代がくるのではないのか。それはすなわちインフレということです。

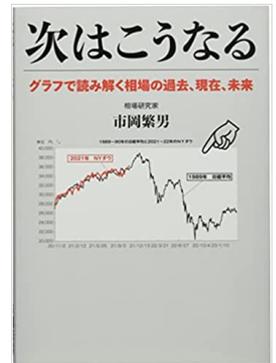
ですから私は、株価は向こう1~2年はぱっとせずダメだと思います。しかしその後は、インフレということでものすごく株価が上がるのではないかと予測します。極端なことをいえば、日経平均が3万円どころか10万円になってもおかしくない。そんなようなことが、2024年くらいからくるのではないかと考えています。

講演では、過去の統計データをもとに、アメリカの長期金利の60年サイクルについて、また、量的緩和が株価に及ぼす影響について説明。さらに山火事によって植生が変わるがごとく、平均株価の暴落によって相場もテーマも変わる。中国の現状と今後の懸念材料について解説。最後に実物資産優位の時代が訪れるのではないのかと言及されました。

(文責 FIWA®)

フリー・ディスカッション

**参加者** | 日米の中央銀行の今後の対策をお聞きしたいです。黒田さんはずっと緩和を続ける。イールドカーブコントロールをずっとやっていると、0.25を目標に買い続けると言いました。でも最近2か月くらいですかね？0.25%以上に長期金利がなりました。今後、世界的にインフレで長期に金利上昇する中、日銀の対策が上手くいくのか？ということ。また、アメリカのパウエルさんが、『インフレ抑制に失敗することが、FRBの最大の過ちである』と言っています。日米の金融政策は今後うまくいくのか。最近市場では『FRBは失敗しているのではないのか？』と言われていますが、どのようにすれば日米の中央銀行のあり方がうまくいくのか、どのようにお考えなのか教えてください。



**市岡** | 私はイールドコントロールなるものは、ものすごく難しいと思います。全世界で今、引き締めをしていないのは中国と日本だけです。中国はああいう国ですから、そういうこともあるのかなと思いますが、日本の場合、資本の出し入れが自由ですから、海外から売り崩しが始まればどうしようもないと思います。すでに債券先物市場ではものすごく下がりました。2年はストップ安に近いところまで近づいた。それをカづくで、日銀が買い戻したりしている。

言葉は悪いですけど、21世紀のインパール作戦のような気がします。もう一つ別の考え方では、株価が下がることでも時価総額は自動的に下がります。でも金利が0.5、0.25%で維持されている間は、まあそんなに株価は下がらない。実際に日本の株は諸外国に比べるとまだましです。だから株価を維持するということを考えるのであれば、インフレで庶民が多少苦しいといっても、株価が時価総額で目減りするよりましではないのか。こんなふうに思っているのではないのかな？と思っています。

もう一つ多分これが本音だと思っていますが、金利が上がれば、今でさえ国債費、国債の利払い費が予算の1割くらいになっている。それが、0.25%が0.5%になれば10兆円が20兆円になる、というようなことで収拾がつかなくなってくることを恐れているのではないのかと思っています。そうだとしたら、このまま日本は終わってしまうのではないのかと恐ろしく思うことがあります。

一つ解決策があるとしたならば、アメリカの景気がいきすぎているところがあるので、インフレが止まらない。だから株価が暴落したら金利も収まるだろうと、逆説的な考え方です。パウエルさんは「金利を上げることによって早く株価が調整してくれないのかな」とそんなふうにいるのではないのかなという気がします。

ただ、それでも一時的に終わってしまうのではないのか。なぜならば、ロシアに対して皆で、制裁を加えたことで東西冷戦が復活してしまった。冷戦が復活したことによって、ロシアの資源が回りまわって世界の物価を下げていたのに、それが入ってこないということになれば、世界的に1990年以前に戻ってしまう。ということは、いろいろなものがまた上がってしまう。つまり、物価上昇が避けられないのではないのかということに惜しいなと思っています。

**参加者** | ニッケルは電気自動車にたくさん使われている資源ですが、だいぶ上がってきました。コバルトやニッケル、電気自動車にたくさん使われるような資源の今後の動向は、どのようになっていくのか。すごく値上がりしていますが、このまま高止まりになっていくものなのか、その辺についてコメントをお願いします。

**市岡** | コバルトやニッケルは電気自動車にとって要となる非鉄ですから、これが上がっていくことが、今までのシナリオでした。しかし、本当に電気自動車は大丈夫なのか？ということが、この1年で分かってくると思います。例えば今、日産のリーフという車があります。前の車は電池が劣化したということで、中古車の値段の相場があると思いますが、それよりも大きく下がっています。その問題が解決しない限りは、電気自動車の夢がぱっと覚めてしまう気がします。そうはいっても環境に優しいということをずっと言っています。しかし、実際にはガセで終わるのかなという気がしています。

もう一つ、中国の景気は、ニッケルの消費が過半を占めています。これからどうなるのか。中国の景気が悪化すると落ちてくるでしょう。実際に、この1～2週間でニッケルの値段はかなり下がりましたが、それは中国景気が、所定のGDPの利回りの目標を達成できないのではないのか、ということで下がっているわけです。こちらも、トレンドとしては上向きだけど、一回お休みするところではないのかという気がしています。

**参加者** | そうしますと、電気自動車は、中国の動向にもすごく影響を受けるわけです。つまりカーボンニュートラルの必要性がだんだん不確かになってきて、欧州の政策にも影響を与えていると思いますが、そうした大きな流れでいきますと、カーボンニュートラルCO2提言のこれからのトレンドというのは、今よりは静まると思っていいのでしょうか。

**市岡** | はい。私はそう思っています。カーボンニュートラルは脱炭素化、電気自動車という流れはダボス会議の主催者の方が言い出してきていることで、大きな流れになってきています。物価が上がっている今、どこまでできるのか、正念場になってきているのではないのかと思っています。ただ、大きな流れの中では、やはり実物資産ということですから、非鉄とか、そういったものがジワジワ上がってきているのではないのかと思います。電気自動車のみならず、軍事的な需要があります。そういった面でも非鉄はまだいけるのではないのかという気がします。

もう一つは、ウォーレン・バフェットさんが2年前か3年前かと思いましたが、日本の5大商社株を全部買いました。その含み益が3割くらいになっていると思いますが、バフェットさんは2倍とか3倍にならないと売らないので、まだ持っているはずです。非常に目の付け所がいいなと思います。バフェットさんが買ったのは、インフレ対策ということで、これから資源が上がるので非鉄をたくさん買ったそうです。実際にそういう流れになっています。ですからバフェットさんが売らない限りは、非鉄はまだまだ続くと思った方がよろしいのではないのでしょうか。

**岩城** | ロシア株ですが、ウクライナ侵攻があった時に、アメリカ、ヨーロッパが経済制裁をするということで、一時、株もルーブルも下がったと思います。結局振り戻しで上がっているということは、経済制裁が効いていないのであろうなと思いますが、結局こんな感じが続くんですかね？

**市岡** | ロシアは、金1gを5000ルーブルで中央銀行が買い取ると発表しました。これは事実上の金本位制の始まりではないのかということです。片方でプーチンが、穀物やあらゆるものをルーブル建てで売りますということになり、すべてが金とリンクした形になりました。その結果、1ルーブル120ドルだったのが、すぐに戻った。今はユーロに対して更に強くなっている。ルーブルが強くなってきているということで相場だけみるとこれはロシアの勝ちではないのかと思っています。

これは回りまわれば、ドルに対する挑戦状みたいなことで、片方だけは金に対してルーブルがリンクしている。ところがドルはお金を刷るだけでいくらでもできてしまう。どちらがいいですか？ということで、新興国を中心にロシアになびくということがこれからあるのではないのかということ。非常に大きな賭けを西側諸国はやったのではないのか。2～3年たったら、後世の歴史家が、あれは西側諸国の失敗なのではないのか、ということになるのではないかと思います。

**岡本** | 今日も中身の多い議論をさせていただき本当によかったと思います。皆さんありがとうございました。

(文責 FIWA®)

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 1  
タグ 【Vol.236】 2022年08月15日発行



2022年8月11日

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

## 【Vol.236】岡本 和久講演

### しあわせ持ちへのロードマップ～お金と心

講演 岡本 和久 CFA, FIWA  
レポーター 赤堀 薫里

お金や投資について勉強することは、「ご縁のネットワークの中で、どのように生きていくことがいいのか」を学ぶことにつながります。意識の拡大は、瞑想などの静寂な時間をもつ習慣が大切です。お金のことを学び、意識が拡大することで、資産運用の成功につながります。



ライフプランから始まり資産形成、資産活用、資産運用の応用編、投資方針書とお話してきました。今日はお金と心。最終回です。

心の面。意識をいかに時間軸、空間軸で広げていくのか。今、自分という小さな箱から出て永遠の未来、世の中全体に意識を広げていくことが必要だということです。

一歩ずつ広い意識の中に自分の思考の範囲を広げていく。投資で言えば、空間軸とは分散投資であり、時間軸は長期積立と継続です。それは世界株の長期投資という結論になります。

今、ウクライナの問題で世界全体が非常に苦しい状態になっていますが、我々みんながご縁のネットワークでつながっている。そのうちの一つが分断されると、非常に大きなマイナスがいろいろな分野に出てくる、つまり、みんな、つながっているということです。

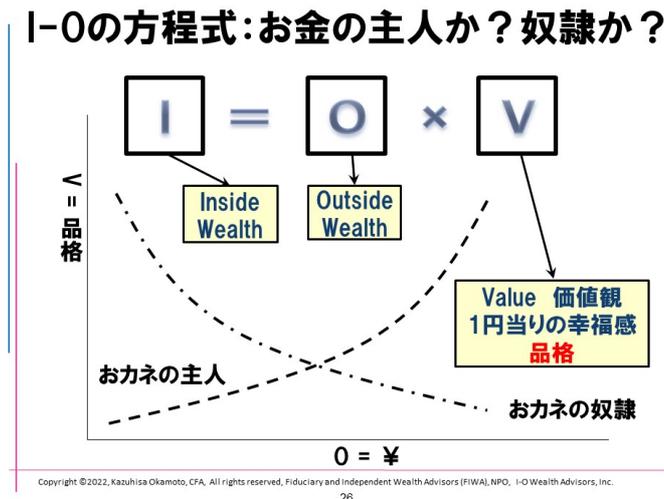
投資とは時間を味方につけること。それは、つまりどう生きるのかということです。結局お金や投資のことを勉強していくということは、「ご縁のネットワークの中で、どのように生きていくのがいいのか」を学ぶことにつながっていくわけです。

大事なことは、意識の拡大、そのために必要なことは、毎日、短くても瞑想などの静寂な時間をもつ習慣。お金のことを学ぶ⇒意識が拡大する⇒資産運用の成功につながる。資産運用の成功につながることによってお金と心、物心両面の幸せを得ることができる。これが200%の『しあわせ持ち』です。心とお金、両方が満ち足りた、200%のしあわせ持ちになるということになります。

私は瞑想を30年くらいしています。当時、資産運用会社の社長をやっていたので、すごく忙しく大変でした。瞑想も大事だけど、実生活と心の静寂を両立するようなことはないかと考えていた時、たまたま本屋で手にした本が、マハリシ・マヘーシュ・ヨーギーの本でした。この本には、『内側の精神性と外側の物質的人生、その二つが統合された人生があります。外側の世界を楽しみながら、なおかつ至福意識を維持していることができる。そのような人生です。それは人生の200%の価値です』とあったのです。ちょうど、私は物心両面での200%の人生ということを考えて続けていたので、『これだ』と思い、それから超越瞑想を始めました。

日々、我々は生きていくと刺激がどんどん来るため、心にいろいろな波が立ちます。でもその刺激は長期的な視野、もしくは全体的な視野で見るとだんだん小さくなっていく。日々起きる出来事、それに伴いやってくる想念は非常に波立ちが大きいですが、その一番奥にある想念の源は、長期的でありかつ全体的であり、そんなに大きく動くものではない。

この世界はまさに投資と同じです。個別銘柄、短期の売買をしていると、非常に波立ちが大きい。でもとにかく長期投資を分散して行う。すると結論は世界株全体を長期保有しておけばいいということになります。それは私が提唱している75文字のDIY資産運用です。『全世界の株式インデックス投信をできるだけ若いうちから、毎月定期的に一定比率を積立投資する。徐々に金額を増やしつづ、それをリタイアするまで絶対にやめない』、これが75文字の資産運用。私が提唱している誰でもできるDIY資産運用です。



I-Oの方程式について話します。私の会社はI-Oウェルスアドバイザーズです。I=インサイド。ウェルス、内側の富。O=アウトサイド・ウェルス、外側の富。外側の富は概して金銭に換算されます。金銭1円に対してどれくらいの幸福感があるのか。1円あたりの幸福感、つまり価値観ということでこれがI=内側の富になります。Vは価値観で、これはまさにその人の品格になるわけです。「 $I=O \times V$ 」、これをI-Oの方程式と私は名づけています。Oである資産がだんだん増えていくに従って、Vである品格が下がっていく人がいます。そうすると、いくらお金が増えても、幸福感が増えていかない。逆に言えば、Oがどんどん上がっていくにしたがって品格が上がっていく人は、内側の富もどんどん増えていくということになります。

仏教的には蓄財は良いことです。労働で財を得てそれを増やす。ブッタの財産3分法。金利は借りたときの恩返し。まっすぐ前を向いて進め。犀の角のようにすすめ。老荘思想は、「急がない」「欲張らない」「争わない」「考えすぎない」、他にもたくさんありますが、投資の観点から重要なことはこの4点だと思います。

そして和心。「和」とは多様性と調和。永代とは時間的な制約がないこと。インデックス投資も結局、「知足」の運用です。欲張らない。積小為大、積立投資、もったいない、コストに注意。おかげさま、グローバル企業。我々みんな世界中の企業のおかげさまで生活ができています。このようなすごい良い感性を我々アジア人は持っています。それがもう少し欧米的な資産運用の中に浸透していき、ただできるだけ早く、できるだけたくさん、短期的な、しかも今の自分に凝り固まったものではない幅の広い心の広い投資が世界の中で広がっていくといいなと思っています。

やはりもっともっと意識を拡大して、物心ともに幸せな効果を得る。そのためには単にお金の面だけを見ているのではなくて、心の面を重視していくということが大事だと思います。

講演では、仏教のお金の考え方や、日本の商人道、代表的なエドノミストの紹介。また、アジア的智慧と資産運用の解説。最後にベンジャミン・グレアム、ジョン・バーウィリアムズ、ピーター・リンチ、バフェット、竹田和乎さん等の智慧の言葉をご紹介します。

[このページを印刷する](#)

カテゴリ FIWAマンスリー・セミナー講演 2

タグ 【Vol.236】 2022年08月15日発行

2022年8月11日

トリビア・コーナー

## 【Vol.236】知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

1945年生まれ。1968年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004年に退職。Facebook上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



### 忘れな草

「忘れな草」は中世ドイツの悲恋伝説に登場する主人公の言葉に因む花である。



騎士ルドルフは、ドナウ川の岸辺に咲くこの花を、恋人ベルタのために摘もうと岸を降りたが、誤って川の流れに飲まれてしまう。ルドルフは最後の力を振り絞って花を岸に投げ、「Vergiss-mein-nicht! ((僕を)忘れないで)」という言葉を残して死んだ。残されたベルタはルドルフの墓にその花を供え、彼の最期の言葉を花の名にした。この伝説から、この花の名はドイツで「フェアギスマインニヒト (Vergissmeinnicht)」と呼ばれ、英名もその直訳の「フォーゲットミーノット (Forget me not)」となった。日本では、1905年（明治38年）に植物学者の川上滝弥によって初めて「忘れな草」と訳された。花言葉の「真実の愛」「私を忘れないで」も、この伝説に由来する。

### サッカーのスローインは、なぜ両手でやるの

サッカーでは、ボールがタッチを割ると、両手でボールを投げ入れて競技を再開する。これが「スローイン」だが、このスローインは、当初は両手ではなく片手だった。

これが両手になったのは140年前の1882年。イギリスのウィリアム・ガンという強肩の選手の登場で、ルールが改正されたのである。クリケットの選手でもあったガンは、片手投げで60ヤード（約54m）もボールを投げることができた。こうなると、肩の強い選手がいるチームにとって、スローインは強力な攻撃の武器になり、スローインから直接ゴールを狙うこともできる。

しかし、こうした点の取り方が可能では、サッカーではなくなってしまう。このため、スローインの攻撃性を弱めるために両手で投げ入れるルールが採用されたのである。

## 「亡命」はどうしてこんな字なのか？

「命」を「亡くす」と書いて「亡命」。政治上の理由で本国を抜け出し他国に逃亡するという意味だが、どうしてこんな字を書くのだろうか？

この場合の「亡」は困いを隠すさまを示す文字であり、「あったものが姿を消す」という意味。また「命」は生命ではなく「戸籍」を意味する。戸籍から抜け、姿を消すから「亡命」である。

### 幻のノーベル賞（山際勝三郎）

よく知られているように日本人初のノーベル賞は昭和24年（1949年）の湯川秀樹博士だが、戦前にも受賞に相応しい研究者は少なからず存在していた。日本細菌学の父・北里柴三郎、ビタミンの発見者・鈴木梅太郎、細菌学の野口英世、腫瘍学の佐々木隆興、フェライトの父・武井武等々・・・なかでも人工癌の発見で知られる「山際勝三郎」はノーベル賞に最も近かった病理学者だ。



### 堀口九萬一とメキシコ革命

1913年（大正2年）2月9日、メキシコ革命の最中、悲劇の10日間と呼ばれる軍事クーデターがあった。フランシスコ・マデロ大統領に対するウエルタ将軍によるクーデターであり、マデロ大統領の父母・子供たちが日本大使館に駆けつけ、一族の親しい友人であり、また臨時代理公使であった堀口九萬一に庇護を求めたのである。

堀口臨時代理公使は、ウエルタ将軍一派が日本公使館を攻撃すると見られていたにもかかわらず、武士道精神から将軍一族を保護した。クーデター後、マデロ大統領及び政権関係者は殺害されたものの、大統領の家族は無事に公使館を出ることができた。この堀口臨時代理公使の人的対応は、メキシコ国内において高く評価され、政権に就いたウエルタ大統領自身からもサムライ外交官として称賛されたのである。

なお、2015年にメキシコ上院議会で九萬一の人的対応に対する除幕式典が開催され、その記念プレートには「1913年2月の苦難の日々における、その模範的な生き方とマデロ大統領家族に対する保護に関して、堀口九萬一と偉大な日本国民に捧げる」と刻まれている。

また、フランス文学者で詩人・歌人である堀口大學は、九萬一の長男である。

このページを印刷する

カテゴリー トリビア・コーナー

タグ 【Vol.236】 2022年08月15日発行

2022年8月11日

FIWA理事リレー投稿

## 【Vol.236】FIWA®代表理事リレー

### 埋もれていたデータが発掘された！

寄稿：FIWA®協会理事長 岡本 和久

いつも不思議に思っていたのが「なぜ、日本には戦後の株価指数しかないのだろう」ということでした。日本で株式取引所が創設されたのは1878年（明治11年）なのに……。明治11年といえば西南戦争の翌年、まだ日銀も設立（1882年）されていません。大日本帝国憲法が制定されたのが1889年。それに先だって株式取引所ができた、「一体なぜそんなに早く？」そんな疑問がいつもありました。

確かに部分的には戦前の株価指数も少しは散在します。しかし、統一されたものは存在しない。「これっておかしくない？」そんな疑問を長年、尊敬する友人である明治大学商学部教授の三和裕美子さんにぶつけたのが2016年。私も長年、お世話になってきた証券市場への恩返しの気持ちを込めて寄付をさせていただき、明治大学に株価指数研究所を設立していただきました。



当初の完成目標は東京オリンピックが予定されていた2020年。しかし、指数をつくる作業は想像を絶するものでした。学生さんたちをアルバイトで総動員して図書館にこもり、黄ばんだ、破れそうになった新聞を丁寧にめくりながら旧漢字の会社名と漢字で書かれた株価を拾ってゆくのです。さらに上場企業の古い営業報告書で配当、増資、収益、発行済み株数などを拾っていきました。

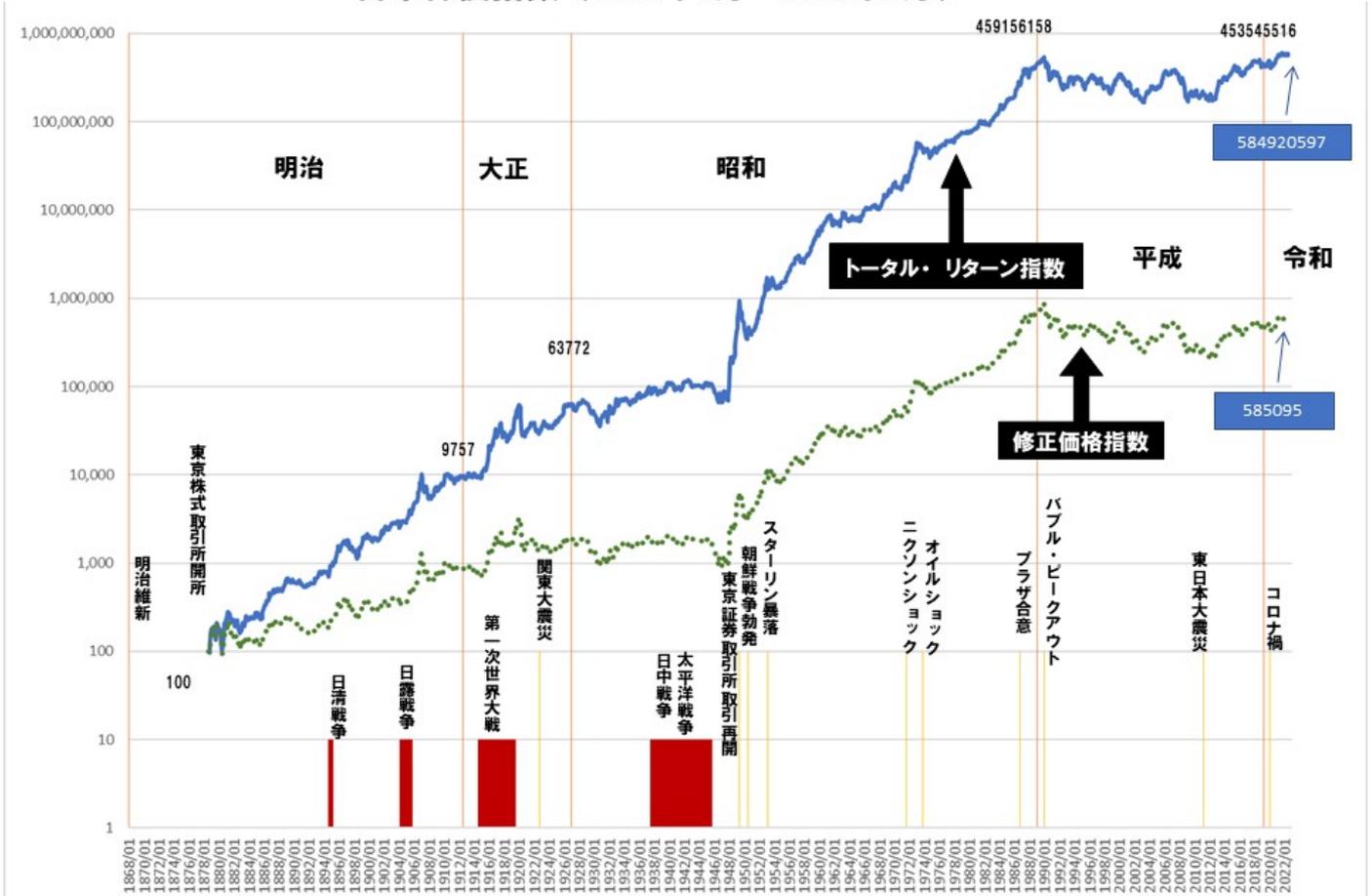
三和さんの強力なリーダーシップと作業のリーダー役を務めてくれた太田達也君などの尽力で、2022年7月末に指数が完成、すでに存在している1951年以降のデータとドッキングしてついに144年にわたる株価指数が完成しました。そして8月2日にプレスリリース。まさにこれまで歴史の中に埋もれていた遺跡が発掘されたようで本当に感無量でした。

### プレスリリース

考えてみればこの指数、なかったことの方がおかしいのです。でも、みんな「なくて当然」というところで思考が止まっていた。私は長くアメリカで仕事をしてきたことからシラー教授やシーゲルさんの著作などの長期的な株価指数にはなじみがありました。そして、このような長期的な視野が人々の目に触れることで本当の意味での正しい株式投資や資産運用の考え方が広まったということも聞いていました。

今回の指数開発は、期間としてはアメリカに勝るとも劣らないものです。しかし、本当はこれからです。この指数を作成するために集めた多くのデータをさらに分析することで一段と研究を深めていくことができると思います。この大仕事を完成されてくださった三和さんはじめ皆さんに心から感謝します。

### 日本株価指数（1878年9月～2022年7月）



私はこの指数は三つの面で日本の証券関係だけでなく多くの人々の考え方に大きな影響を与えていると思っています。

1. このチャートを見ると時々、しかも、かなり長い年月、株価が低迷する時期もある。しかし長期的に見ると市場全体の株価は上昇する。それは総体としての企業の価値が増加し株価がそれを反映しているであろう。
2. チャートをよく観ると小さなギザギザが集まって大きなトレンドができています。小さな株価変動で売買をして儲けようとするのではなく長期保有することこそ大きな成功の秘訣である
3. 今回、収集したデータにより株式のインフレを調整した実質株価の推移、長期的なリスク、リターン、リスクプレミアム、債券や外国株などとの相関関係の分析も可能となる

そして恐らくもっとも重要なのが

- 戦前、戦後を通じた指標により、戦後だけに限定されがちな我々の意識の枠を広げる効果がある。戦前、戦後を連続した歴史として株式市場を見るのではなく我々の社会、生活、文化などを俯瞰するきっかけとなる。大幅安、大幅高をしているところを年表で何が起こったか調べてみるのも面白い

この指数が株式市場の有益性とどまらず、我々の視野の広がり役に役立つことを願っています。

このページを印刷する

カテゴリ FIWA理事リレー投稿  
タグ [Vol.236] 2022年08月15日発行

# 生き延びる力～戦中・戦後の体験談を聞く（前編）

岡本 和久

8月15日は終戦記念日です。1945年8月15日、玉音放送によって戦争が終わりました。戦中、戦後の体験をされた方々もだんだん減ってきています。しかし、極限状態を体験された人々の強いこと。多少のことでは動じない「生き延びる力」を感じます。平和が長く続き、安楽な生活に多くの人が慣れ親しんでいます。それはとてもありがたいことです。しかし、また、何か大切なものをわれわれは失いつつあるのかもしれない。その意味で、今、戦争体験を文章の形にして皆さまにお伝えすることは意味があるのではないかと思います、今月と来月にわたってこの企画をお届けする次第です。

2011年3月11日の震災はわれわれの魂を揺り動かす出来事です。多くの方々が筆舌につくせぬ苦しみと悲しみを抱えられました。しかし、若くして戦災を体験された人たちが強烈な生き延びる力を得られたのと同様、これから多くの「強い」若者がたくさん出てくることだろうと思います。そんな確信を持ちながらこの記事を書かせていただきました（なお、取材記事は私が取材録音したものをできるだけ忠実に文章にしたものです）。

## 壮絶な引揚げ、極貧の戦後を生き延びてつかんだもの

上田卓さん、上田早苗さん

上田卓さんは読売広告で取締役を務められた後、現在、ティー・エム・ジェイの専務取締役としてマーケティング・プロデューサーをされています。上田卓さんの妹の上田早苗さんはイギリス、スイス、アメリカ、香港、タイなどで日本語教師として海外勤務を経験、現在は日本語教育アドバイザーとして活躍、同時にフリースクール「上田学園」を主宰されています。

### ◆上田卓さん

私は1937年に、今は中国ですが満州で生まれました。父は満鉄（南満州鉄道）の技術畑の人間でした。母も同じく満鉄の研究畑の人でそこで二人が知りあって結婚、そして私が生まれました。葫蘆島（コロトウ）というところに住んでいました。その後、大連に長くいましたが、とても幸せな生活を送っていました。中国人の女中さんや畑を手入れしてくれる人などもいました。

父親は満鉄にいたということもあり、ある程度、戦局の実情も聞いていたようです。たまたま、1944年（終戦の1年前）大連港の埠頭に焼夷弾がひとつだけ落ちたのです。それがどうもアメリカ軍のものようだというので騒ぎになりました。父は、これはいよいよ米軍が満州にも来るだろうということでわれわれ家族を疎開させたのです。ハルピンの先に綏化（スイカ）というところがあります。そこから先はソ連領です。日本はソ連とは不可侵条約を結んでいましたから、北の方へ避難すれば大丈夫だろうと考えたのです。父は大連に残り、われわれ母親と私と弟3人とメイドさんなどを連れて移動をし、綏化の日本人町に落ち着きました。綏化での生活も幸せでした。ある意味、戦後、日本に駐留していた米国人のような生活だったのです。今から考えれば天国でしたね。そこで終戦となったのです。



終戦の当日、私は夏休みで家にいましたが、あの気丈な母がワーと泣きだしたのです。ラジオが鳴っているのですが、私は意味がわからない。なぜ、母親が泣いているのだらうと思い、私はオロオロするばかりでした。「お母さん、なぜ泣いているの？」と聞いてもわからない。夕方、まだ、明るいうちでしたが、母が私に「弟たちを集めて」というのです。母の部屋で車座に正座しました。そこで母は「実は、日本は負けたのよ。天皇陛下さまがそういうお話をされて、もう、日本はなくなるのよ。私たちももう生きてはいけない。それで、今日、ここでみんな一緒に天国へ行きましょう」というのです。母は何か青酸カリのようなものを持っていたようです。それを水に溶いて渡されました。「これを飲むと天国に行けるのよ」と母が言うのです。そして、本当に飲む寸前までいきました。でも、そのときどういうわけか私がそれを止めたのです。どうして止めたかかという、「お母さん、お父さん、帰ってくるんじゃないの？ 僕たちだけが天国に行ったら、お父さんかわいそうだよ。お父さんが帰るまで待とうよ」と言ったのです。それで母親も正気に戻ったのだと思います。とにかく、それではお父さんを待とうということになったのです。それで生き残ったのですが、それからが実は大変でした。

ソ連兵が拳銃を持ってどんどん入ってきて略奪、暴行を行います。ソ連兵の多くは罪を犯してシベリアに送られた人たちです。兵隊といっても「弾よけ」ですよ。彼らがどんどん入ってくる。中国は軍隊を持っていなかったので一蹴されてしまった。あるとき、若い娘さんがうちに逃げ込んできた。そのあとをソ連兵がわめきながらどやどやと入ってきた。その娘さんを犯そうとしていたんですね。母はすぐにわれわれ子どもたちに「お便所に隠れなさい」と言いつけました。そのあと、外では大騒ぎがあってソ連兵が出ていった。母がわれわれを出してくれましたが、その娘さんはワンワン泣いている。そのようなことがあちこちでたくさんあり、その当時のことでもあり、自殺をした娘さんもたくさんいたと聞いていた、と聞いていました。



その後もなかなか父親が帰ってきません。理由は明確でした。当時、満鉄の課題は関東軍の日本兵をシベリアに送ることでした。そのための鉄道の操作は中国人だけではできなかったのです。そのために父親も手伝わされていたんですね。綏化はシベリアに行く最後の給油地でした。電気でも動く電車ではない。蒸気機関車は水と石炭が必要です。ほとんどが貨物列車で屋根がありません。そのなかに日本兵が動物のように缶詰になっている。それをソ連兵が自動小銃を持って見張っている。逃げたらすぐに撃ち殺される。燃料を綏化で積んでいる間、ソ連兵は暇です。そこで人間を的にした射的をするんです。私も狙われました。母親には絶対に外に出てはいけなと言われていたけれど、こちらはまだ幼い子どもです。目を盗んで外に出る。友達と二人で外で話をしていた時に、たまたま、そこに中国人が通り、その中国人がひっくり返ったのです。見ると撃たれているのです。中国人がみんな集まってきて大騒ぎになりました。これは僕が初めて人が殺されるのを見た瞬間でした。それが私は8歳のときでした。

それから引き揚げになりました。兵隊はシベリアに連れて行かれたけれど、そのほかの人たちは日本に送り返すと決まっていたようです。父親も綏化によく来ることができました。逃げようとして殺された兵隊は数知れませんが、兵隊をシベリアに送り折り返してきた最後の貨物車に乗って、家族は大連に戻りました。大変な数の人たちが押し込まれていましたが、朝になるといなくなっている人もいました。おそらく汽車から落ちてしまったのでしょう。汽車が途中で止まってしまい、そのあと撫順(ブジュン)まで歩きました。そこに収容所のようなところがあり4カ月を過ごしました。そこで生活していたのですが、食べるものもありません。中国の人が食べ物をくれたのがありがたかったです。

撫順にいたときに弟が一人亡くなりました。栄養失調です。中国でも蒋介石と毛沢東の戦いが激化して、それに巻き込まれて撃たれて亡くなった方もたくさんいました。そして、その収容所の中で生まれたのが早苗です。母が穿いていたモンペのなかで生まれました。というのは、母親は妊娠していたのですが、お昼の食べ物を探すために動き回っているうちにモンペのなかで急に生まれたのです。周りの人が「あ、生まれる！ 奥さん、寝て、寝て」と叫んだと言います。

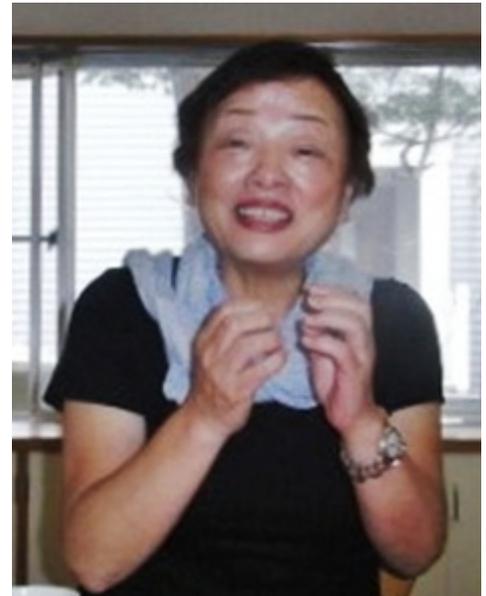
### ◆上田早苗さん

それが私です。

### ◆上田卓さん

この子は多分、生きながらえることはできないだろうとみんな思っていた。そんなとき、中国人が「子どもをくれないか」と聞いてきました。父親は「このままでは生きていけるかどうかわからない。子どもだけでも中国人にあげよう」と言ったのですが、母親は「どうせ死ぬならみんな一緒にのほうがいい」と言い、それは実現しませんでした。そこから葫蘆島に汽車で行くことができ、そこにアメリカ軍の貨物船が来ていたのです。その貨物船で数日かけて舞鶴に帰ってくることができました。船で食べたアメリカ軍のスープとパンがいかにおいしかったことか。生まれてからこんなにおいしいものは食べたことがないと思ったほどでした。ほとんどまともなものはずっと食べていませんでしたからね。

舞鶴から東京に引き上げ、麻布中学のすぐそばの倉庫が引揚者寮となっていたのでそこに落ち着きました。ローンテニスクラブが近くにあり、アメリカ人がテニスをしていました。テニスボールが場外に飛んで来るとそれを拾って食費を稼いだりしました。父は満鉄もなくなってしまって、仕事もない。それでガードマンのようなことをしていました。私のすぐ下の弟も栄養失調で亡くなりました。男の兄弟が四人いたうちの二人、一人が中国で、一人が日本で栄養失調で死んだのです。今でもよく覚えています。母親が「さんざん苦労して、せっかく日本にまで帰ってきて、もう大丈夫と思ったとたんに死んでしまった」と泣いていました。私はがむしやらになんでも食べるタイプでしたが、弟は好き嫌いがあり、母が「好き嫌いはだめよ。好き嫌いがあると、結局栄養を摂れなくなってダメになってしまう」とその後もずっと言っていました。棺もなかったのです。ミカン箱を改造してそれお棺にして荼毘にふしました。



### ◆上田早苗さん

麻布の引揚者寮で、朝起きたら天井に空が見えるのです。台風が来て屋根がすべて飛ばされてしまったこともありました。

### ◆上田卓さん

父がガードマンで、母はアルバイトをしていました。父は夜勤も多く、結局、私が長男だったので家事は私が見よう見まねでやっていました。弟たちと一緒にやっているうちに、だんだん知恵がついてできるようになってきました。当時、水泳の古橋広之進ががんばっていました。私も水泳をやっていたんです。かなり上手でみんなにほめられる。それが何か生きる力になっていました。そういう意味では何か前に向かって進んでいました。やはり、引き揚げまでの極限状態があったので、それと比べればずっといい。あの苦しみがバネになっていますね。今、若い人にも「ありがたい世の中でそう簡単に殺されるわけではない。どんな大変なことがあったって、そこがどん底でそこからよくなると思えばいいじゃないか」と話しています。人間の世界って面白いものです。みんな、一生懸命に必死で生きていました。

引揚者寮には小学校6年までいました。いろいろな所で引揚者寮ができていたので6年のときにそこを出て、三鷹の寮に移りました。それで少しずつ生活も安定してきた。

### ◆上田早苗さん

私は有栖川公園近くの幼稚園に行っていました。大使館が多いので外国人の子どもが多いんですね。外国人の子どもが泣いているのを見て、家に帰って「お母さん、キューピーちゃんが泣いてたよ」って報告をしたりしたものです。「何かね、四角いものがあるってね、それを食べているんだよ」と報告する。いま思えばサンドイッチです。日曜日にはパンを買ってもらえました。兄たちは私のために一つだけコッペパンを買ってくれました。それを有栖川公園に座って食べました。それが本当においしかったです。学校の給食もとてもおいしかったです。今から考えればとても食べられない味でしたけど。周りがみんな貧しかったので。

よく覚えているのは、みんなでケーキを「見に行きました。食べるのではない、見に行くのです。ケーキ屋さんが近所にできました。そこにクリスマスのケーキが飾られていて、ケーキの家の横にお菓子のトナカイがありました。母がそれを見に連れて行ってくれました。「これはね、ケーキと言って食べられるのよ」って教えてくれました。「本当にこれが食べられるの？」と聞く私に「そうなのよ。クリスマスっていうキリスト教のお祭りがあって、そのときにこれを食べるのよ」と教えてくれ、それを見に行くのが楽しみでした。何度も行ったものです。

母は「貧しくてもいろいろなことを知るべきだ」と考えていました。それで、本当にボロボロのかつこうだったのですが、国会議事堂などいろいろな所に連れて行ってくれました。武蔵野市に引っ越すことを決めたのも教育を考えたからだと思います。もうひとつの引っ越し先の候補は品川でした。そのほうが仕事は多かったそうです。でも、三鷹駅前には母の大好きな国木田独歩本、『武蔵野』の碑もあるし、教育には三鷹のほうが良いということでこちらにしたそうです。

#### ◆上田卓さん

賃貸の引揚者寮でした。長屋のようなアパートでした。みんなが助け合っていました。当時の私の楽しみは映画でした。欧米の映画を、アルバイトをして得たおカネで観に行く。映画のなかは世界が違うんですね。ですから、映画を観ている間は、楽しい、おいしい世界がある。そこに2時間ぐらいいる。出てくると「ああ、よかった。次の映画を観るまでがんばろう」と思ったものです。世界の差を感じましたね。アメリカ人家庭の使用人をしている家の子どもが友人でした。その家に行くとアメリカ人からおいしいものをもらえる。それを食べさせてもらえることも楽しみの一つでした。時代の知恵というのでしょうか、極貧のなかでもお互いに助け合い楽しみを見つけました。



現代の日本を見て一番気になるのは「心」ということです。マスコミなどで餓死などのニュースが取り上げられています。でも、本当のことをいったら、少し考えれば生きられないことはない。仕事だって選ぶから。俺は捨てられたとか、俺はダメになったとか言っているけれど、それは多くの場合、心の問題です。少し、心のあり方を変えれば道が開けてくる。苦難は人を成長させます。どん底で「よーし！」という心が必要なのです。戦争がいいわけではないが苦難は必要です。苦難が人を強くする。苦難のない時代が長く続いたので、みんな弱くなってしまった。「なんでそんなことで、自分がダメだといって自殺しちゃうの」と思うことがとても多いです。大学卒業して3カ月ぐらいで、せっかくな就職した会社を気軽に辞めてしまうんですね。考えられないですよ。昔だったらビンタをしてでも残らせます。今、そんなことしたらすぐ新聞ダネになってしまう。鍛える側も厳しいことができない。鍛えられる側はすぐにいなくなってしまう。ですから、私から見ると今の社会って幸せそうに見えて意外に不幸だだと思います。

#### ◆上田早苗さん

今、「みんなぼっち」という言葉があるそうです。みんなというけれど一人。政府がいろいろと援助するけれども、人間の尊厳が大切にされていない。何か大切なものが骨抜きになっている。福祉という名のもとに一番大切なものが失われている。それが孤独感になっている。

#### ◆上田卓さん

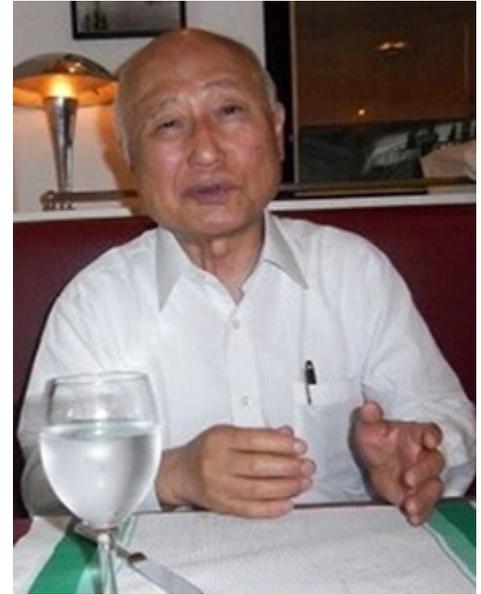
最近は何かが足りなければすぐそれを与える。でも、「足りなければ作れ。それを応援するよ」というのが本当の姿です。政府もおカネさえ出せばいいと思っている。何かが欲しいと小さい子は「ママー」と泣き叫ぶ。泣くのを止めさせるために欲しがるものを与える。そういう子どもたちが今、大人になっています。怖い話です。モノがありすぎるのも人間社会にとって問題ですね。若者に言いたいことは、人間も、すべての動物もエゴの存在だということです。みんな、自分がよくなりたいと思っている。ただ、自分が幸せになるためには人とつながりが大切です。人を大切にしなければ自分は幸せになれない。一時的でもいいから自分を少し引いて相手をたてる。そうすればその人は決してそれを忘れない。自分が困ったときに助けてくれる。弱肉強食の動物の世界でも、結局群れを作って助け合っている。「最大のエゴのためには人を助けよ」ということを一番言いたいですね。自分の取り分を減らしても人に譲る。それが自分のためになる。気がついたら自分が一番幸せになっているのです。

## 若いときの苦労は買ってでもしろ！

田中義博さん

新日本証券副社長、太陽投信(現新光投信)社長を経て現在、太陽インベストメント・アンド・コンサルティング代表取締役。ニューヨーク、ロンドンなどに駐在経験を持つ。

僕は昭和7年、1932年の生まれです。今年10月に80歳になります。父は、当時のブリジストンのいわゆるノンキャリアの職工長でした。夜間の工業専門学校しか出ていない技術者でした。同社は地下足袋から始まった会社でしたが、すでに自転車、自動車、戦闘機・爆撃機のタイヤ、靴(軍靴)などを作る会社で、いわば軍需産業だったのです。ある程度、戦争が始まることはわかっていたんでしょうね。同社は青島とジャカルタ、そして台北に製造拠点を作ることを決めたのです。父は台北の工場を作れという命を受けて技師四人で赴任しました。それが昭和12年です。私を含め家族は昭和14年に父と合流、小学校1年生でした。当時、台湾には日本人が60万人いました。完全な日本の植民地です。台湾府の総督は陸軍大将か、海軍大将。父は技術の親玉で、下に台湾人が5~600名いました。子どもを戦争に行かせたくないで富裕層の台湾人は息子を軍需工場に入れたいわけです。軍需工場で働いていれば軍隊に行かないでよかったのです。それで台湾人の金持ちがいろいろなツテを頼って息子を入れようとしていたのです。



私は台北一中という日本人学校に入学しました。約50人のクラスで、そのうち4~5人が台湾の富裕層の息子でした。中学は台北一中が原則、日本人だけ、二中が台湾人だけ、そして三中は日本人と台湾人と分けられていた。私の入った一中にはごく少数の台湾人がいたのですが、彼らはものすごく優秀でした。成績トップはいつも彼らでした。彼らは日本が追い出された後、みな立身出世をしています。

中学には入ってもほとんど勤労働員で勉強はしませんでした。1、2年生は勤労、3年生は軍隊に組み込まれていました。すでに、米軍は沖縄に上陸していました。次は台湾だという危機感が高まっていました。まあ、「たぶん敗けるのだろう」と思いつつ軍需工場などで働いていました。空襲も日常的で随分多くの人々が死んでいました。顔のない死体がゴロゴロしていました。わが家も沖縄から逃げてきた人のための避難所になっていました。総督府に1トン爆弾が落ちました。地下まで貫通して地中で爆発するのです。すべてが飛ばされてしまう。学校も半分は崩壊しました。

終戦を迎えたのは中学1年のとき、そのときは農業試験場に動員されていました。暑い日でした。天皇陛下の玉音放送があるとは聞かされていましたが、ザー、ザーという雑音ばかりで何も聞こえない。終わったら先生が「敗けた」と言ったのです。両親も軍需産業に勤めていて戦況がわかっていたので、それほどのショックはなかったように思えました。戦争が終わって1週間ぐらいで授業が再開しました。先生たちは立派でした。英語の授業も始まり、数学も物理も化学も日本語の国語も、そして中国語も開始されました。後年、仕事で中国に行ったとき「あなたの中国語の発音はいいね」とほめられたものです。そのころから台湾人同級生の報復が始まりました。クラスのガキ大将だった男は学校の帰りに待ち伏せされ、ひどい目にあわされました。幸い、僕はガキ大将の子分でしたから直接的に暴力を受けたことはありませんでした。台湾人学生連盟というのができて暴力で報復する。戦中はガキ大将が台湾人を殴っていた。それでも彼らはだまって我慢していた。まさに報復でした。授業が始まる前に学生連盟がダミーと教室に入ってきて黒板に大きく「犬」と書く。中国で犬というのは最大級の侮辱的な言葉です。「貴様たちは犬だ。このなかで台湾人の同級生をいじめた奴は立て」と言われる。しかし、誰も立たない。立ったらやられる。そうすると「やっぱり犬だな」とあざ笑いながらガキ大将を殴る。



終戦までは工場などでも台湾人の職工を殴るのは日常茶飯事でした。戦後、父のところにも報復が来ました。幸いに叔父が陸軍軍曹だったのです。父は彼の所属する分隊を工場で働かせるという便宜を図っていた。槍、刀などを持った中国人が報復に来たときに、すぐ私は叔父のところへ飛んでいった。「おじさん、来たー！」と叫んで飛び込むと叔父などは銃剣や刀を持って助けに来てくれた。わが家でも押入れのなかに日本刀を隠し持っていました。それは使わないですみました。倉庫なども武装強盗団に襲われたりしていました。守衛さんは頭を槍で突かれながらも守衛室まで走りサイレンを鳴らしました。サイレンを聞き、銃剣

道5段、剣道名誉7段だった父は防空頭巾をかぶってわが家の日本刀を持って駆け付けていました。トラックで台湾人部落にまで追い返す。そのようなことはたくさんありましたが、満州でロシア軍が攻めてきたというようなことはなかったですね。やはり、日本が台湾ではいい政治をしたということがあったのではないかと思います。あくまで個人的な怨恨を晴らすという感じでした。

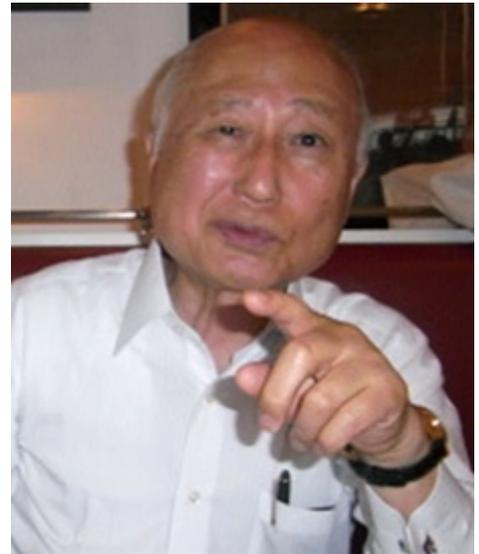
私が病気で寝ていたときの事です。父は米軍の良い毛布を手に入れていました。その毛布で私が寝ていたのです。そこに中国人の警察官が靴のままわが家に入って来ました。大きな拳銃を突きつけながら「この毛布をよこせ」というのです。母は懸命に日本語で説明して泣いて頼んだ。結局、他のものを持って帰りました。そんな生活をしつつ昭和21年4月に帰国しました。国家を失った民族の悲哀をしみじみ感じましたね。

帰国して父の兄の家に居候となりました。親子7人が6畳一間と3畳、しかも、そこは養蚕のための部屋でした。父の兄は貧乏百姓だったのです。しかし、農地解放になり大地主の土地をもらえることになった。それである程度の自作農にはなっていました。幸い父はブリジストンに復帰できた。何階級か格下げになり、父は随分悔しがって泣いていました。当然、給料も下がる。とても安月給では7人家族を養うことはできない。当時としてはみんな生きるためにやっていたことかもしれませんが、闇の取引などにも手を貸していたようです。中学生の私も闇の品の運び屋まがいのことをさせられました。早朝に墓場で商品を渡すのですから、いくら子どもでもこれはよくないことなのだとわかりますよ。でも、生きるためにはそれも仕方なかったし、みんなそうやって生き延びるために何でもしていたのです。

戦争中に父は兄に3000円送金していました。帰国したら家を買おうと思っていたのです。昭和15～16年ごろですから3000円もあれば家を買えたのです。ところが叔父はそれを銀行に入れてしまった。そうしたら、預金封鎖です。一人500円しか預金を下ろせない。しかも、戦争に敗けて帰ってきたら3000円といっても米20～30キロぐらいしか買えない。大インフレが始まりつつあったのです。とにかく絶対に物がなかった。

半年ぐらいで叔父の家をでて、父の実家のあった博多から15キロぐらいのところの社宅に入れました。父は何としても田んぼを買わなければならないと思っていたようです。とにかく、6000円ぐらいで棚田を買ったのです。博多の町まで流れる大きな川の支流の上流にありました。良い米が取れるのです。その棚田を耕す仕事が私と弟にまわってきました。当時は化学肥料などありません。そこで叔父の家にある牛車を借りて、空の樽を満載にして、博多の町まで15キロ行って肥えを買って歩くのです。人糞の汲み取りですね。隔月に一升ぐらいのコメを渡して売ってもらっていた。お得意先が何十軒かあったのです。樽を人糞で満載にして、それからまた牛車で15キロ帰ってくる。とにかく、そうして苦勞して30万円ぐらいのカネを貯めたんですね。それでまた、別の家と田んぼを買ってという風にして増やしていったんです。

高校に進学するときに、叔父は私を線路工夫にしようと考えたようです。父は「自分は学校に行っていないからこの子は行かせる」ということで進学しました。大学に入試するときも九大に入れなかったら就職しろと言われていました。結局、九大に入学して、大学を昭和30年に卒業しました。学資は全部自分で調達しました。奨学金ももらい、アルバイトをして、衣類まですべて自分で稼いだカネで賄いました。父は会社を辞め、雑貨と野菜を売る店を始めました。少しずつ土地も値上りを始めました。さらに雑貨屋を処分して今度は西鉄の駅の前に土地を買い、書店を始めました。すぐそばに高校ができるという情報を得ていたのです。書店をやりつつ学校や役所に入出入りしているうちに市会議員になりました。次に書店も売却し、自宅のそばにビルを建てました。その意味では5人兄弟で本当に苦労したのは上二人、下はそれほど苦労はしませんでした。まあ、もちろん、今の若者とは比べものにならないでしょうけれどね。父は市議員を16年勤め、勲六等の勲章まで最後はもらいました。



必死の思いと覚悟でもって大日本帝国のために国民皆が力を合わせて頑張ってきたが、祖国は米国に破れました。当時、台湾にいた日本人は1945年8月15日をもって祖国を失ったのです。青天白日旗を振りながら天稗棒と銃と身の回り品を担いで行進していく支那兵を出迎えさせられたあの屈辱は忘れられません。強い祖国があつての国民の生命・財産の安全です。父は身の危険にもあいました。そして、すべての財産を失いました。

私は1972年に初めて米国ニューヨークに赴任しました。超大国アメリカの巨大な力に圧倒されましたが、逆に「俺は日本人」である、いくらアメリカに敗れたとはいえ、日本人としての魂まで失ってはならない。必ずや日本を復活させ、欧米列強に伍してその存在をあらしめる国にしたい。そのために力の及ぶ限り、自分の専門分野(投資銀行業務)で欧米の大金融機関に恥ずかしくない仕事をしたいと念じながら今日まで頑張ってきました。

若い人たちへのメッセージですか? 「若いとき、苦労は買ってでもしろ」ということです。そして、「その苦労に向かっていけ。苦労をすると新しい自分が見出せる」ということでしょうね。「若い人たちよ、今からでも遅くない。世界に飛び出して行って日本人の存在を示してもらいたい。そのためにはわが国の歴史・文化を改めて学び直し、かつ、相手国の民族・歴史・文化をしっかりと勉強してほしい」それを一番、言いたいですね。

## 空襲敢闘記

### 岡本 茂和

私(岡本和久)の父(岡本茂和、1917年生れ、2000年没)は「空襲敢闘記」という随筆を残しています。1945年5月24日の深夜にかけて一家の住んでいた東京都目黒区大岡山付近が空襲にあい、辺り一面が焼け野原となりました。そのなかで父をはじめ親戚や近所の人たちが必死に自分の生活を守っている様子が書かれています。国と国との戦争に翻弄される民衆、そのなかで必死に自分たちを守る人々、今から60数年前にあった事実を風化させないためにも皆さんに読んでいただきたいと思い、ここに掲載させていただきます。

昭和二十年五月二十四日午前零時半頃であつたか、確かな記憶はないが突如警戒警報を知らせるサイレンが鳴り響いた。早速、ラヂオのスイッチを入れると敵数機が帝都に近接しつつある旨放送している。考えて見れば前回以来一ヶ月余、昼間一度立川へ多数機で来襲したのみにて静寂に戻っていた帝都であつた。其間約一ヶ月、吾家に於いても大きく時を稼いでいた。その前夜、疎開先の祖母様から御手紙があり次の便で送らねばならぬ品物を話し合ったりしながら、今月から御米差し引きとなった丸パンを食べた。しかも丸パン一日分二個を一度に「うまい、うまい」と頬張り、残っている御飯でお茶づけを食べ、寝しなには更にその日小生が会社で配給された海宝麺を「ひじきと変わらぬ」等云いながらお皿一杯試食して、それこそ超満腹感を吃しながら九時前後床に就いたのであつた。

サイレンで起こされた時も又、敵大軍来襲の報道を聞いた時も、実に吾ながら平常と変わらず、寧ろより以上に落付いていることができたのは実は前夜の栄養食が腹に一杯ありそこから力もりもりと泉の如く湧き出していたからであった。当時、ラヂオは不絶情報を伝えていたが記憶にない。只刻々と迫る敵夜間大空襲の前ぶれを放送していた様だ。始めて隣組防火郡副部長の腕章をつけた。何だか急に力がついて来た様な気がした。みどり(妻)もすばやく自身の用意を整え持出す荷物を玄關に揃えていた。みどりと二人で順序よく完成したばかりの中壕にハシゴをつたって先ずトランク立てに信玄袋、それに其前日持ち帰った海宝麵の一包、座布団、蒲団包等押し込めて蓋をした。門の傍の壕にも木箱等入れて先ずはこれで一安心と云う処だ。

照空燈に照らされて敵機が一機、又一機、三四千の高度であちこちを飛び廻る。見る見るうちに南方の空がまず赤くなる。次いで北方の相当はなれた処にバラバラと焼夷弾が落ちて行くのが花火のように見える。と突然頭上を通った一機から落としたのであろう身をつんざく様な落下音と共に成功館付近より火の手が上がった。愈々身近に落ち出したかと思うと思わず身のしまる感がする。空からは焼夷弾の油片が赤く燃えながらあちこちに落ちる。前の畑にも一つ。早速とび口でたたき消す。桜の木にもひっかかって燃えている。皆盛んにガヤガヤ叫び声を立てて消火に懸命だ。これなら「延焼の心配なし」と思ってすぐ家の前に戻り上空を警戒する。盛んに火のついた油片が落ちて危険極まりない。特に家の垣根によくひっかかる。小さい油片なのでたたくればすぐ消える。があちこちなので漸く忙しさを増して来た。

折から家の真西より飛来してきた敵一機、頭上より約五十度位手前にてバラバラバラバラと火の粉が落下した。「これはいかん」と思うとたんにザーザーと云う物すごい落下音、思わず門前の街燈に身をよせた瞬間、パリパリ、ツドン、パリパリ、ツドンと云う屋根を貫く音。火の手は我家よりわずかに南へ三軒目の家の前当りから上がった。皆、消火を始めたのでこの分なら延焼は大丈夫と又しても危中の一安心を見つけた。がしかしそれから一、二分も経ったであろうか、又も同じ西方上空に一機来襲、同一個所で焼夷弾を落下した。今度は駄目かと思う一瞬、火の手は家の前の谷を横切って落下。一本の帯となって火を吹き上げた。始め風向は北風で成功館の方より火の粉の飛来するのが心配だったが後には西風になり谷向うから吹きつける。前の谷の溝より南は火の海だ。隣が焼ければ家が危ない。取るものも取り敢えず駆けつけて水をかける。隣には若い女の人がおり小生二人にて水をかける。たちどころに用水槽の水が無くなる。家の水も無くなる。然し一軒先の家の火はいよいよ燃え盛る。風呂場の水に気がつき一生懸命に隣のはめ板に水をかける。体は水でぬれてぐしゃぐしゃ靴も目茶苦茶、ブカブカしてすぐぬげる。風呂場の水もたちまち使いつくした頃、火は残念ながら隣の二階に移り始めた。二階には水がとどかない。その上その水さえ遂に補給がつかぬ。「もう之までだ」、自分の家を守ろうと思って家に引き返した。

家の台所近くに来るや否や又々新しい焼夷弾が次、次へと落ちている。此時、一発は異様な音を立てて遂に吾家の台所天井を貫いたらしい。外より見ると台所中、硝子越しに真赤になっている。「畜生！ 遂に落ちたか」、今迄、今の今迄は大丈夫と置いていたが。体は隣家の消火で既に疲れ切っている。台所の木戸口に走り寄ったら運悪く中から閉って開かない。力にまかせて木戸をたたき破り中に入る。既に台所中、一面、火の海だ。中に入ったが水が無い。水道は勿論出ない。大声で叫んだが誰も居ない。どうにも手のつけ様がない。困った揚句、家の中に駆けて行った時、ふと足許の掛蒲団に気が付いた。「これだ、これだ」とすぐ大きな掛蒲団を一枚ひきずる様にかついで来て台所の戸棚の前の火点にかぶせて足でふみつけた。蒲団の四方から火がふき出る。丁度此時、近所で人が小生の声にかけつけ、一、二杯水を呉れた。蒲団の上からかけたが大した効果もない。そこへさらに近所の人が水をもって駆けつけてくれた。すぐかける。然し次の水までの間が長くて火は仲々劣えぬ。このとき天佑か神助か、蒲団で火力を押さえているそのすぐ下に土釜が二つあり、しかもその土釜に夫々水が一杯入っているではないか。「これだ、これだ」、すぐお釜二杯の水で蒲団をぬらし次の水を待つと不思議と急に火力は劣え始めた。「しめた、しめた」、もう大丈夫だ。そう思っている中、ご近所の人たちから夫々数杯の水補給あり遂に消し止めた。

「消したぞ」、大声で叫んで台所から出るや否や、今度は隣家の二階が炎々と燃えている。今度は「家に水をかけろ」と叫びながら一心不乱に水をかける。裏口よりみどり、隣に住む叔父一家、皆代り替りに庭より水を持って来て小生に呉れる。羽目板にどンドン注ぐが、すぐ湯気になって消えてしまう。吾家もついに燃えるかと思ひ荷物を運びだすことを考えたが、すでに壕にいろいろな物のみどりが入れてあったので安心。焼けても大丈夫と思いつつも、此の後、いよいよ最後に持出すべきものを頭の中で数え上げた。御位牌、ラヂオ、自転車…。しかし、家は燃えぬという信念の下に消火しているのだ、これらのものは最後まで持出さぬと決心、消火に専心する。もしここで持出せば皆の気持ちが乱れる事を恐れたからだ。こうしてどンドンどンドン水をかける。家の井戸、隣の井戸と両方から補給して呉れる。

周りでは「あと五分だ、頑張れ頑張れ」と連呼している。小生もそれに呼応して水をかける。既に炎はこちらになめかかって来る。顔が暑い。焼けつく様だ。思わずバケツの水を頭からかぶる。数分経つと又耐えられなくなる。又水をかぶる。全部で明け方まで何杯かぶった事だろう。バケツリレーの水もなかなか間に合わぬ。そこで杓子でドブ水をかける。全く夢中で水をかけていたら遂に最悪の場面に直面した。即ち炎上している隣の二階が家の上に押しかぶさって倒れかかって来たのである。愈々絶体絶命、思わず持っていた柄杓で支えた処が先の金の桶が取れてしまった。思わず素手にて支えはねかえた。そばで叔父様が「手では危ない、何かないか」とおっしゃって居られたがそんな暇はない。今考えてやけどをしなかったのが不思議な位だ。疲れた体に一心にお念仏を称えながら、神仏の加護を祈りつつ消火に縦横無尽、頑張ったのである。倒れ掛かったやけた柱も漸く火が衰え始めた。やや暫く、もう延焼の危険は去ったと思われたが未だ余燼が上がり炎は燃えている。今、心をゆるめ風向が変われば大変と疲れた体を自らはげましながら何回となくバケツの水を注ぎ込む。何時の間にか空はうす明るくなりかけて来た。時計を見たら四時過。一同、思わず顔を合わせお互いの敢闘を祝しながら先ず無事を喜び合った。小生もうれしかった。ご近所の人たちも来られ「四圍は全部焼けたが一軒丈残った、満願だ」と云って叫んでいる。皆敢闘したものの喜びの雄叫びだ。

この頃からどうしたものか寒さを感じる。一通りの寒さではない。悪寒だ。ガタガタふるえる。洋服も多少ぬれてはいるもののそんなに冷えている訳ではないのだが、皆に聞いて見ると皆が皆ふるえている。余り火の側で駆け回っていた反動であろう。焼け跡の火に遠くからあたりながら暖をとる。いつの間にか近所の火もすっかり下火になっている。見ると一面の焼け野原になっているので驚いた。まだ余煙と灰煙でよく見えぬがとにかく相当な被害らしい。一方、家の中は台所の焼夷弾消火の時、土足にて往来し、又、水をかけたので泥と水でぐちゃぐちゃ、畳の上にあがる訳にも行かぬ。然し焼け残ったのだ、この位はしかたないとあきらめる。腹が減ったので平常用意していた炒り米を食べる。みどりは御飯を炊く。焼け出された人の手前もあり余り仰々しくできぬのでこっそりとおにぎりを作る。小生もみどりと腹一杯、食べる。相当食い込んだ事と思いつつも、今、この時元気を出さねばと思いい遠慮無く頂戴した。お酒でもあれば大いに祝杯を上げる所だがそれどころではない。次の空襲にそなえて対策をねりつつ喜び合うのであった。

(次号に続く)



📅 2022年8月11日

📺 動画紹介

## 【Vol.236】FIWA動画紹介

岡本 和久 CFA, FIWA

リスクとリターンを学べば投資がシンプルになる

今回はFIWA協会理事長、岡本 和久の「お金と心チャンネル」からリスクとリターンのお話を紹介します。

### # 1 株式会社の仕組みとリスク・リターン (7'02")

リスク、リターンと言った言葉は株価や債券の値動きに関連して使われることが多いのですが、本当は「なぜ株式や債券にリスクがあり、そのリターンの源泉がどこにあるかを理解することはとても大切です。」

公開日20211203



岡本和久のお金と心チャンネル 「リスクとリ...



### # 2 リスク・リターンのトレードオフ (8'42")

リスクは下値メド、リターンは上値メドという間違っただけの考えを持っている方も多いです。リスク、リターンの本当の意味、そして、トレードオフとは何か。分かりやすく解説しました。

公開日20211210



岡本和久のお金と心チャンネル 「リスクとり...



### #3 投資信託のリスク・リターン (10'30")

投資信託の説明資料などにでているリスクとリターンの図はとても誤解を生みやすいと思います。その本当の意味を説明しました。では、リスクをコントロールする手法とは？

公開日20211217



岡本和久のお金と心チャンネル 「リスクとり...



### #4 ポートフォリオのリスク・リターン (12'18")

資産運用の目的は資産全体がパッケージとして安定的に増加していくことにあり、個別銘柄の価格変動は二義的な意味しかありません。つまりパッケージ=ポートフォリオの資産価値こそ重要なのです。理論的に正しく、実証的に有効な誰でも自分でできるDIY資産運用法を紹介します。

公開日20211224



岡本和久のお金と心チャンネル 「リスクとり...



このページを印刷する

カテゴリー

動画紹介

タグ

【Vol.236】 2022年08月15日発行

# <モデルポートフォリオ:2022年7月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円
4資産型	積極型	4.10	6.65	8.64	12.86	14.31	3.02	29.49	64.94	147.01
	成長型	2.69	4.20	6.14	9.47	9.66	2.17	19.71	42.32	101.80
	安定型	1.27	1.68	3.48	6.00	5.63	1.26	10.27	22.25	61.73
2資産型	積極型	4.25	8.01	10.76	13.83	15.43	3.89	38.32	78.78	188.66
	成長型	2.70	5.66	7.84	10.54	11.05	3.19	26.52	52.53	130.20
	安定型	1.16	3.20	4.77	7.17	7.40	2.41	15.24	29.44	79.71

\* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2021年7月末に1万円投資資金を積み立て始め、2022年6月末の投資資金までとする(2022年7月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。出所:イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)まで。

## ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

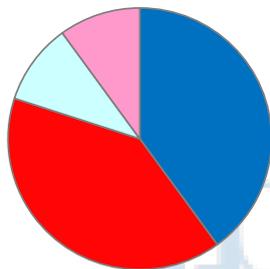
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。  
<http://www.investlife.jp/>

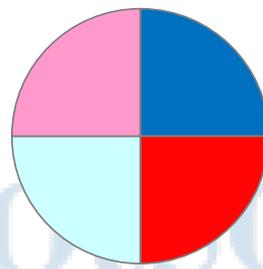
### 4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

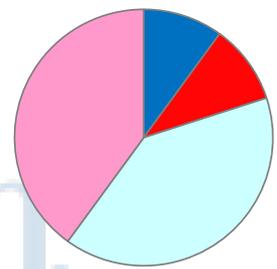
#### 積極型



#### 成長型



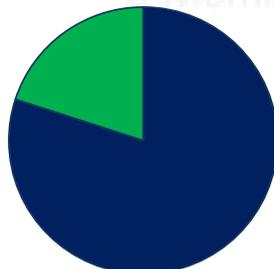
#### 安定型



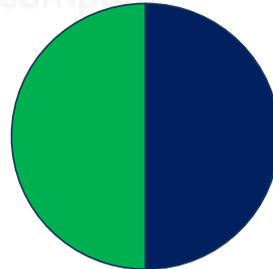
### 2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

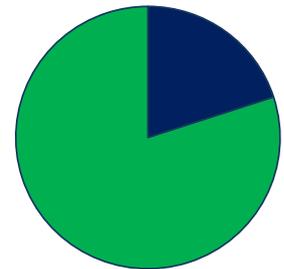
#### 積極型



#### 成長型



#### 安定型



<国内で購入可能な代表的ETF: 2022年7月末の運用状況>

当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。※ファンド名をクリックするとそのファンドの詳細を見ることができます。

「長期投資仲間」選定「インベストライフ」のその他の記事はこちらをご覧ください。 <http://www.investlife.jp/>

\* 投信ブログ 「梅屋敷商店街のランダムウォーカー(インデックス投資実践記)」の管理人、水瀬ケンイチさんのご協力で銘柄を選定しました。  
 なお、国内株式、債券、コモディティについては [インベストライフ](#) が選定しました。

Ti cker	ファンド名	トータルリターン (米ドル換算)					トータルリターン (円換算)					リスク (円換算)		1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				純資産 2022年7月末		総経費率 または 信託報酬 (%)	イボットソン 分 類	連動を目指す 投資対象指数
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	百万ドル	億円			
1308	上場インデックスファンドTOPIX (日興AM)	5.43	-14.26	2.04	3.35	6.80	3.71	4.41	5.99	4.47	12.48	17.63	14.16	1.44	19.65	29.03	52.00	12.17	71.79	108.38	182.41	55,817	74,599	0.0968	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1348	MAXIS トピックス上場投信 (三菱UFJ国際)	5.42	-14.25	2.04	3.35	6.59	3.71	4.42	5.99	4.47	12.47	17.63	14.16	1.45	19.66	29.03	51.99	12.17	71.80	108.39	182.39	18,370	24,552	0.0858	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1554	上場インデックスファンド世界株式 (MSCI ACWI)除く日本(日興AM)	4.84	-11.00	7.86	7.83	8.96	3.14	8.39	12.05	9.00	14.98	18.95	15.65	3.31	44.81	61.23	90.28	12.40	86.89	135.44	228.34	54	73	0.264	外国株式・ 世界型(除く日本)	MSCI ACWI ex Japan指数(円換算)
VT	Vanguard・トータル・ワールド・ストックETF	7.04	-10.52	7.97	8.10	9.68	5.31	8.96	12.15	9.28	15.73	18.71	15.05	4.24	45.07	62.43	94.35	12.51	87.04	136.44	233.22	23,509	31,420	0.07	外国株式・世界型	FTSE グローバル・ オールキャップ指数
I CO	iShares® グローバル 100 ETF	9.98	-1.02	12.65	11.53	11.66	8.19	20.53	17.02	12.75	17.83	19.47	15.19	11.06	67.92	92.61	132.49	13.33	100.75	161.79	278.99	3,660	4,891	0.4	外国株式・世界型	S&P グローバル 100 指数
TQK	iShares® MSCI コクサイ ETF	8.09	-8.46	9.57	9.13	10.77	6.34	11.47	13.82	10.32	16.89	19.52	15.60	5.59	52.39	71.68	108.32	12.67	91.43	144.21	249.99	167	224	0.25	外国株式・ 世界型(除く日本)	MSCI KOKUSAI(コクサイ)指数
EFA	iShares® MSCI EAFE ETF	5.11	-13.84	2.74	3.19	5.81	3.41	4.92	6.73	4.31	11.65	18.46	14.94	2.44	27.19	36.14	51.43	12.29	76.31	114.36	181.72	47,595	63,610	0.32	外国株式・ 大型ブレンド型	MSCI EAFE 指数
VSS	Vanguard・FTSE・オールワールド (除く米国)スモールキャップETF	5.71	-18.33	2.18	4.15	5.96	4.00	-0.54	6.14	5.28	11.81	19.02	16.60	-1.07	25.73	34.94	51.72	11.87	75.44	113.35	182.07	7,877	10,528	0.07	外国株式・ 中・小型ブレンド型	FTSEグローバル・ スモールキャップ(除く米国)指数
VTI	Vanguard・トータル・ストック・マーケットETF	9.40	-7.76	12.11	11.54	13.42	7.62	12.33	16.46	12.75	19.68	20.59	16.38	6.01	60.55	85.35	139.13	12.72	96.33	155.69	286.96	269,247	359,848	0.03	米国株式・ 大型ブレンド型	CRSP UST-ータル・マーケット指数
VB	Vanguard・スモールキャップETF	10.58	-11.10	8.81	8.66	11.65	8.78	8.27	13.03	9.85	17.81	23.75	19.68	5.29	48.30	66.24	106.16	12.63	88.98	139.64	247.39	42,370	56,627	0.05	米国株式・ 小型ブレンド型	CRSP USスモールキャップ指数
EEM	iShares® MSCI エマージング・ マーケット ETF	-0.50	-20.67	0.30	3.19	2.21	-2.12	-3.39	4.19	4.32	7.85	17.92	16.29	-3.09	13.81	24.66	33.71	11.63	68.29	104.72	160.46	25,995	34,742	0.68	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI エマージング・マーケット指数
WVO	Vanguard・FTSE・ エマージング・マーケットETF	-0.87	-16.50	1.91	3.80	3.11	-2.48	1.68	5.86	4.93	8.80	18.01	16.23	-0.77	20.82	31.96	42.57	11.91	72.49	110.85	171.08	70,555	94,296	0.08	外国株式・ 新興国型(複数国)	FTSEエマージング指数
FM	iShares® MSCI フロンティア 100 ETF	0.68	-14.36	1.53	2.37	—	-0.95	4.29	5.47	3.49	—	—	—	-4.30	20.84	28.87	—	11.48	72.51	108.25	—	349	466	0.79	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI フロンティア・マーケット 100 指数
I GOV	iShares® 世界国債(除く米国)ETF	2.52	-20.97	-2.99	-0.80	-1.08	0.86	-3.76	0.78	0.28	4.37	6.85	7.08	-1.39	1.45	3.19	7.08	11.83	60.87	86.68	128.50	1,035	1,383	0.35	外国債券・世界型	S&Pシティグループ・ インターナショナル・ トレジャリー・ボンド指数(除く米国)
AGG	iShares®・コア 米国総合債券市場 ETF	2.42	-9.13	1.23	1.62	1.59	0.76	10.66	5.15	2.72	7.20	7.80	3.60	7.53	19.10	21.97	31.90	12.90	71.46	102.46	158.28	83,277	111,300	0.03	米国債券・ 中長期型	バークレイズ米国総合指数
TI P	iShares®・米国物価連動国債 ETF	4.24	-3.83	3.80	3.24	1.81	2.55	17.12	7.83	4.36	7.43	8.00	4.64	10.60	31.95	35.78	44.53	13.27	79.17	114.05	173.43	30,712	41,047	0.19	米国債券・ インフレヘッジ型	バークレイズ 米国TIPS指数(シリーズL)
RWK	SPDR ダウ ジョーンズ インターナショナル リアル エステート ETF	6.61	-16.96	-0.50	0.17	2.59	4.88	1.12	3.36	1.27	8.25	17.80	15.92	1.27	14.58	17.00	25.94	12.15	68.75	98.28	151.13	590	788	0.59	海外不動産 (除く米国)セクター型	ダウ・ジョーンズ・グローバル (除く米国)セレクト・リアル・ エステート・セキュリティーズ指数
I YR	iShares®・米国不動産 ETF	8.84	-4.22	7.46	7.71	7.97	7.07	16.63	11.63	8.88	13.93	19.99	16.95	9.26	49.23	59.76	90.02	13.11	89.54	134.20	228.02	4,319	5,772	0.41	米国不動産 セクター型	ダウ・ジョーンズ米国不動産指数
GSG	iShares® S&P GSCI コモディティ・ インデックス・トラスト	-0.19	40.99	9.55	3.46	-3.40	-1.81	71.69	13.80	4.58	1.93	25.30	22.11	38.51	88.42	86.69	61.98	16.62	113.05	156.82	194.38	1,781	2,380	0.75	コモディティ・総合	S&P GSCI商品指数
GLD	SPDR®ゴールド・シェア	-3.53	-4.35	6.28	6.48	0.38	-5.10	16.48	10.40	7.64	5.92	13.55	15.16	8.52	37.89	46.48	52.42	13.02	82.73	123.04	182.91	56,686	75,761	0.4	コモディティ・貴金属	金地金価格 (ロンドン午後決め値)

\*積み立ては税引き前分金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合は2021年7月末に1万円で積み立てを開始し、2022年6月末投資分までの2022年7月末における運用成果とする(2022年7月の積み立て額は入れない)。

出所: MorningstarDirect のデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.com.jp/contact-us/>)にてお気軽にご送信ください。